

所属・資格 社会学科・教授

申請者氏名 犬飼 裕一

研究課題		社会学思想の展開と自己言及社会：理論社会学のさらなる展開
報告の概要	研究目的 および 研究概要	19世紀に発する社会学理論の展開を学説史として研究する一方で、20世紀における社会観として総括的に捉え直すことを目的とする。研究概要としては、古典の再読を通じて理論社会学のさらなる展開を目指していく。研究成果の公表は、共通したテーマをめぐる相互に関連し合った個別論文を順次発表していく形をとり、それらを修正して単著として刊行することを一つの目標とする。
	研究の結果	本年度はまず数年にわたる研究成果として、単著書『歴史にこだわる社会学』（2018年10月26日、八千代出版）を刊行した。これは社会学の学説史と歴史社会学の研究を融合した形で、主に一般の読者を想定している。これと平衡する形で、自己言及性と秩序形成の関係を探求した論文を三点発表した。刊行順に、「おのずから生ずる秩序の語り方—フリードリヒ・ハイエクと社会学理論」ではフリードリヒ・ハイエクの「自生的秩序」という概念が社会学に応用可能なのかを問い、「自己言及としての社会」では人間社会認識が不可避にもっている自己言及性について考察し、「社会的構築の彼方 自己言及性から社会構築主義・社会構成主義」では、「社会構築主義（社会構成主義）」の議論を自己言及性から再定義することを試みた。
	研究の考察・反省	著書『歴史にこだわる社会学』は社会学の古典的な著作がどのような歴史的背景によって生まれているのか、有名な著者たちはどんな「社会」を分析しようとしたのかを問うた。これはいままでほとんど行われてこなかった研究視角であり、歴史学専攻出身者である当研究者の独自性を発揮したものであるといえる。自己言及性と秩序形成、さらには「社会」の発生をめぐる考察は今後もさらに展開していくことにする。将来的にまとまった論集として刊行することも考えている。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>「チェルノブイリ以降のドイツ」、日本大学社会学会大会、2018年7月21日、日本大学文理学部</p> <p>単著書『歴史にこだわる社会学』、2018年10月26日、八千代出版</p> <p>単著論文「おのずから生ずる秩序の語り方—フリードリヒ・ハイエクと社会学理論」、『研究紀要』（日本大学文理学人文科学研究研究所）、第96号、2018年9月30日</p> <p>単著論文「自己言及としての社会」、『社会学論叢』（日本大学社会学会）、第193号、2018年12月25日</p> <p>単著論文「社会的構築の彼方 自己言及性から社会構築主義・社会構成主義」、『研究紀要』（日本大学文理学人文科学研究研究所）、第97号、2019年（印刷中）</p>	